



牛町の隣接村合併交渉は絶対でこれに牛町の二万五千七で居る

百四十一名を加へれば早くも三万二千五百六十五名で市

最安易村と觀られて居る平制に必要な人口三萬以上

至報の如く今十四日選舉場合、同村の三千五百三十

飯野に主力を注ぐ事との形態が具體されるので

より愈々部長連が乗り出し更に若し神谷村が承諾する

委員會終了後兩村當局に對し七名を加へて僅に三萬突破

し最後の談話交渉を進めた（三萬五千七百二名）を見

最初は都落縁会で進んで来る事になるので町でもこ

な市制準備も其間の曲折に先途と進むるわけである

尚前記二村は第一次交渉に際し小學校舎或は役場の改築等當面の事業が

横たはつて居り、戸數割の差額も大してない處かを比較的樂観視されてゐる

第二次選舉當正運動を議論する平町の當正委員會は今十四日午前十時から開き△頼まれて選舉せざること

三業組合 平三業保 健組合で役員改選

は工程左記役員の改選を行つた組合長佐々木熊吉 副組合長渡邊九郎兵衛 会計本田留治 評議員上田正 隆外二名

に就ては昭和七年の師走期に於て連載し氣を語らねばならない。

「盤中騒動」先づ事の起りを説く順序に於て是が當時の揚士を書いた一校長植竹源太郎氏はそ

の如て再録するものどうの晩年こそ平町教育城社三の丸のほどり、悠々自適白雲

陸奥の國は黒石の城主。△根源は先生から

た「盤中人國語」に書いた一校長植竹源太郎氏はその如て再録するものどうの晩年こそ平町教育城社三の丸のほどり、悠々自適白雲

陸奥の國は黒石の城主。△根源は先生から

た「盤中人國語」に書いた一校長植竹源太郎氏はその如て再録するものどうの晩年こそ平町教育城社三の丸のほ